

参院選の準備 野党協力調整に本腰を

野党がバラバラに臨めば、政
権与党的厚い壁にはね返され、
政治から緊張感が失われかねな
い。さりとて、選挙前に急いでし
らえで協力態勢を組んでも、支
持者は混乱し、有権者の理解を
得る暇もない。政権を厳しくチ
ックする野党の本分を果たす
つもりなり、いつまでも手をこ
まぬいていてはいけない。

想定される参院選の公示まで
3カ月を切った。自民党的選挙
区の公認はほぼ出そろい、自由
候補のメドが立っていないのは
山形だけだ。「相互推薦」をめ
ぐらめくしゃくしていた公明党
との協力関係も確認された。

対照的に、野党の態勢づくり
は遅れている。過去2回の参院
選では、「安倍一強」に歯止め
をかけようと、32の1人区すべ
てに「統一候補」を立て、16年
は11勝、19年は10勝と、一定の
成果につながった。今回はま
だ、各党がそれに擁立を進

めている段階で、調整は緒にも
ついていない。

とりわけ水を差したのが、國
民民主党の政権与党への接近
だ。新年度当初予算に賛成した
うえ、ガソリン税を一時的に引
き下げるトリガーメンテの発動を
めざし、自民、公明両党との実
務者協議を始めた。昨秋の衆院
選の時点で、共産党を含む野党
の、今や事実上の闇外協力とみ
られて仕方あるまい。

野党の分断を狙う与党の思惑
にくみするのか、あくまで野党
として政権に対峙するのか、参
院選での立ち位置を、玉木雄一
郎代表は明確にすべきだ。

衆院選で躍進した日本維新的
会は、次の衆院選での野党第1
党をめざし、参院選ではまず、
改選6議席の「倍増」を目指し
掲げた。地盤の関西以外で、ど
こまで国民の支持を広げるかと
ができるか。第三極としての真
価が問われる。

院選で、この問題にこだわり続
けることが生産的だとは思えない
い。「白紙に」という立憲の泉
健太代表がます胸襟を開き、共
産を説得する必要がある。

自公政権に代わる確かな選択
肢を、説得力をもって示せる
か、力技を握るのが公約づくり
だ。立憲は衆院選で打ち出した
政権政策について、「有権者の
目には財源論を含めた実現可能
性が低く映ったものも散見され
た」と総括した。その反省を踏
まえるなら、与党とバラマキを
繰りよつない」とはせず、中長期
的な視座に立って、真に求めら
れる政策を練り上げるべきだ。

衆院選で躍進した日本維新的
会は、次の衆院選での野党第1
党をめざし、参院選ではまず、
改選6議席の「倍増」を目指し
掲げた。地盤の関西以外で、ど
こまで国民の支持を広げるかと
ができるか。第三極としての真
価が問われる。